

祇園祭の夜、 まちはひとつになる。

羽黒神社 伊達組 組長 柴山和己 Shibayama Kazumi



伊達組組長の柴山さんは、下館祇園まつりを力強く支え続けてきました。

長い歴史が受け継がれる明治神輿、新しくつくられた平成神輿、夜の宮入に集う提灯の灯り。それらの一つひとつに、先人たちの熱い想いが宿っています。

「伝統を大切に守りながら、羽黒の大神様に五穀豊穡と市民の幸せを祈る。そうしていれば、人は自然と集まってくるんです」。そう語る柴山さんは、担ぐ人も守る人も分け隔てなく迎え、秩序と熱意を両立させてきました。半纏を着れば、初めての人も、市外から訪れる人も、すぐに仲間になる。祭りは数日で終わりますが、その積み重ねは消えることはありません。柴山さんの願いは、灯りを絶やさず、人の心を未来へつなぐこと。その大きな背中が、下館の夏の伝統を次の世代へと導いています。

■ 柴山さんのおすそわけは、
神輿を担ぎたい人、
祭りに携わりたい人にアドバイスすることです。
連絡先は、TEL.090-8847-5495